第20回神奈川産学チャレンジプログラム

最優秀賞に5チーム

神奈川県内にある企業や団体、大学による産学連携の課題解決型コンペ「第20回神奈川産学チャレンジプログラム」（一般社団法人神奈川経済同友会主催）の表彰式が12月17日、横浜市のパシフィコ横浜で行われた。専大からは5チームが最優秀賞（別表参照）、16チームが優秀賞に選ばれた。

今回は、過去最多となる40社がテーマを提示。18大学の204チームがエントリーし、現地調査やアンケートなどで得られたデータを元に、最新の研究理論を用いた具体的な解決案を提示した。

式では、最優秀賞を受賞した30チームのうち3チームによる代表プレゼンテーションが行われ、本学からは経営学部・間嶋崇ゼミの永田志帆さん（3年次）のチームが登壇した。ブランド品のリユース事業を展開する株式会社アールケイエンタープライズからの「ブランド品をもっと身近に」という課題に対し、「別に、きれいだし。」と題した企画を提案。店舗イベントの実施やインフルエンサーを巻き込んだPR活動などを通して、話題性の創出と新規顧客の獲得を目指した。

最優秀賞・優秀賞を受賞した皆さん

◆最優秀賞受賞チーム◆

※敬称略、先頭がリーダー。カッコ内は所属ゼミ。学年は全員3年次

永田志帆	堀川創栄	植松大翔
山﨑都月美	橋本大輝	
（経営学部・間嶋崇ゼミ）		
頼末栞里	西野凜太郎	大用夏奈
大槻優太	小山裕太	
（経営学部・間嶋崇ゼミ）		
北島海里	松田莉奈	臼居七海
新井大樹		
（商学部・石川和男ゼミ）		
高橋恋佳	清水りな	藤原珠央
大三川恵生	長井花梨	
（商学部・谷守正行ゼミ）		
萩原陸仁	横田暁大	山口舞
河田莉奈	久保田祐輔	
（商学部・増田明子ゼミ）		

表彰式で代表プレゼンを行った永田チーム

育友会奨励賞

32人2団体に

学業、スポーツ、社会貢献など在学生の創造的な行動と成果を顕彰する第25回育友会奨励賞の表彰式が12月14日、神田キャンパスで開かれた。今年度は過去最多の56件の応募があり、このうち個人32人、団体2組が選ばれ、溝田勝彦育友会長から表彰状と奨励金が授与された。

式には佐々木重人学長、松木健一理事長や育友会の役員らが出席し、幅広く活躍する学生たちをたたえた。

出席した受賞者一人一人が活動概要や今後の抱負を述べた。このうち、NGOやNPOのインターンシップに参加してきた佐藤昴さん（経済4）は「活動によって、さまざまな社会課題を知ることができた。解決に向けて、これからも取り組んでいきたい」と語った。

受賞者の皆さんと溝田会長、松木理事長、佐々木学長

受賞者紹介

※敬称略

【個人】佐藤昴（経済4）竹内奏良（経済4）小井土璃空（経済4）本川温瑛（経済3）久住祐翔（法4）岩澤楓（法4）新井俊介（法1）馬渕航太（経営4）李晗心（経営3）高良光（商2）出澤杏佳（文4）本橋真由美（文4）稲岡慎之介（文4）楠瀬慎奈斗（文4）鈴木梨子（文4）熊谷倫太郎（文4）河上明来海（文4）土門拓海（文4）中島佳音（文3）永野功大（文2）石井徹平（ネット情報4）魏嘉逸（ネット情報3）佐々木励（ネット情報3）原大我（ネット情報1）伊藤凜（人間科学4）岡田健太郎（人間科学4）寺田蓮（人間科学2）足立光（国コミュ4）矢野未来里（国コミュ4）鈴木琉世（国コミュ3）

【団体】専修大学生のための情報発信サークル「しらたま」（代表＝阿部ひかる・経営3）経営学部経営学科岩田弘尚ゼミナール（代表＝西村省吾・経営4）

ネット情報・プロジェクト最終発表会

1年間の研究成果を展示・実演

ネットワーク情報学部3年次生の演習科目「プロジェクト」の最終発表会が12月14日、生田キャンパスで開かれた。

プロジェクトは、教員や学生が起案したテーマごとにチームを作り、1年間かけて研究や開発に取り組む。今年度は28プロジェクトが活動。それぞれが展示や実演など趣向を凝らした方法で、研究成果を披露した。

榮谷昭宏プロジェクトは、AIがユーザーの表情から感情を読み取り、適切な対話を行う独自のスマートスピーカーを開発した。

多様なオーディオメディアのあり方を学ぶ杉田真浩プロジェクトは、フィッシング詐欺対策をテーマに活動。アンケートフォームを模した疑似コンテンツを開発し、詐欺被害への注意を促した。

太田隆博プロジェクトは、インドアで釣りを楽しめるゲームを開発。10号館1階のアカデミーモールにプールを用意し、来場者を楽しませた。

各プロジェクトが趣向を凝らして研究成果を披露

スマートスピーカーに話しかける学生

インドア釣りゲームを開発した太田プロジェクト

ネット情報・映像演習基礎

多摩区と専大のCM作品制作

川崎市多摩区や専修大学の魅力を伝える30秒のCM作品を制作するネットワーク情報学部2年次の専門科目「映像演習基礎」の優秀作品表彰式が1月16日、生田キャンパスで行われた。

今年度は多摩区部門に19作品、専修大学部門に15作品が提出され、川崎市多摩区長最優秀賞には、高アミさんの「たまく」が選ばれたほか、5作品が入賞した。

表彰式では入賞6作品を上映した

懸賞論文・文芸作品コンクール

懸賞論文部門	
佳　作	椿士竜（商4）
文芸作品部門	
鳳　賞	野尻武大（文3）
柘植光彦文学賞	安田真裕（院文修2）
優秀賞	石黒真悠（文4） 江野実帆子（文4） 石本匠（文3）
佳　作	赤坂颯太（経営4） 髙田元太（文3） 剱持葵（文1） 阿部寛介（文4） 三村陽哉（ネット情報3）

※敬称略

文芸作品部門

鳳賞に野尻さん（文3）

学生部が主催する懸賞論文・文芸作品コンクールの表彰式が12月2日、生田キャンパスで行われた。文芸作品部門のトップである鳳賞に野尻武大さん（文3）が、柘植光彦文学賞に安田真裕さん（院文修2）が選ばれた。

野尻さんの作品は『海豚少年』。イルカが好きな中学生を巡る物語を書いた。いじめや孤独、自己認識に焦点を当てた学園ものとなっている。大学入学後から創作活動を始め、文芸創作の小林恭二ゼミに所属。「ジャンルにとらわれず、これからもいろいろな作品を書き続けたい」と話す。

今年度は両部門で計25作品の応募があった。

論文部門審査委員長の王伸子国際コミュニケーション学部教授は「近年、自分の言葉で表現しようとする傾向があるが、まずは形式を重視してほしい」と述べ、応募者数の増加にも期待を寄せた。

文芸部門審査委員長の小林教授は「最終選考に残った作品はどれも粒ぞろいで、特に上位2作品は文学性が高く甲乙つけがたかった」と講評、「文学は自由。思い切って書いてください」と受賞者に呼びかけた。

鳳賞を受賞した野尻さん（左）